

開催日 : 2025 年 2 月 13 日（木）11：00～11：50（ウェブ会議形式）  
出席者 : 40 名（機関投資家・アナリスト向け）  
主な質疑応答 :

**Q1：通期予想のネットキャッシュが前回予想と比較して約200億円強増えている状況に対する認識を教えてください。**

A1：政策保有株式の売却により、昨年9月と比較するとキャッシュポジションは改善しており、次の成長投資に向けたバランスシートの準備ができてきたと考えている。増加した資金は、投資待機資金が回復したものと認識している。

**Q2：通期予想において、英領北海シーガルプロジェクトの増益要因を教えてください。**

A2：原油出荷のタイミングが繰り上がったことで、前回予想よりも 23 万バレルほど販売量が増えている。

**Q3：米国タイトオイル開発の来期の生産量の見通しを教えてください。**

A3：2022年度に取得した資産からの減退が始まる一方で、2023年度および2024年度に取得した資産からの生産量が伸びてきたため、来期は今年度並みの生産/販売量を見込む。損益は、減退が始まった資産の操業費が生産量の低下に比例して減少すれば今年度並みだろう。

**Q4：期末配当予想 25 円は暫定的なものと理解してよいか、また、今後配当を見直す際の計算方法を教えてください。**

A4：期末配当予想は据え置いているが、見直しはあり得る。また、計算方法については、既にお支払いしている中間配当と期末配当と合わせた年間の配当性向が 30%になるように期末配当額を調整する。

**Q5：来期の E&P 事業（米国タイトオイル開発を除く）、I/U 事業において、数量・コスト面で注視すべき点を教えてください。**

A5：今期の英領北海シーガルプロジェクトは12ヵ月分寄与しており、来期も今期（今回修正予想の水準）の継続を見込む。また、来期のLNG販売数量は減少すると考えており、今期見込42万1千トンと、前期実績27万5千トンの間に落ち着くだろう。さらに、今回予想では在外子会社の円換算レートは12月末の158円だが、来期も同水準であることは想定しにくく、換算上の変動要因となり得ると考えている。

**Q6：配当予想の見直しを行わなかった理由を教えてください。ダウンサイドリスクがあるのか。**

A6：第 4 四半期における特段のダウンサイドリスクは認識していない。期末配当は通期決算後に決めるものの、投資家の皆さまへは通期の見通しや、油価・為替のセンシティブリティが限定的であることをお示ししており、期末配当について予見性をもってご理解いただけるものと考えている。

**Q7：I/U事業の営業利益予想が171億円に増加しているが、期初予想は120億円だった。利益水準のベースが変わったのか。**

A7：利益水準のベースは期初予想の120億円くらい。LNGのカーゴ販売により今期は販売数量が増加しているが、

来期は元に戻る想定。

**Q8：在外子会社業績の円換算における利益の感応度を教えてほしい。**

A8：前回予想では、12月末の為替を予想レートである140円で換算していたが、今回は実績である158円で換算した。18円程度の為替差により、（営業利益が）約15億円強上振れた。

**Q9：持分法投資損益が前期比（通期）△6 億円となった内訳を教えてほしい。また、来期にかけての変動はどうか。**

A9：前期(通期)の持分法投資利益 2 億円のうち、一番大きいのは SODECO の 5 億円であるが、今期は為替差損により 5 億円弱程の持分法投資損失を見込んでいる。また、J Norge は、今期の下期から子会社化される際に減損処理を行ったことなどにより、19 億の持分法投資損失を計上した。

来期に向けては、今期 12 億円の持分法投資利益を想定している GCLH（フリーポート LNG プロジェクト）だが、損益見通しが年初の 1 回しか入手できていない。この点は課題。また、SODECO は、営業活動の再開状況により損益が変動するだろう。

**Q10：バイオマス発電の収益の状況を教えてほしい。**

A10：バイオマス発電について、各発電所の会計上の利益はトントン程度。ただし、バイオマス燃料供給も含めると数億円程度の利益を見込む。

**Q11：米国 LNG の調達に関し、トランプ政権となったことによる影響はあるか。**

A11：短期的に大きな影響はないと考える。バイデン政権時より LNG 輸出に積極的になっており、当社も参加するフリーポート LNG プロジェクトの第 4 トレインの拡張については懸念が少なくなったと受けとめている。一方で LNG 調達先として、現在の契約をすぐに米国産に変えるというわけではないだろう。また、米国からの LNG 出荷が本当に増加するかは現時点では分かりかねるため、当社の LNG 調達において大きなインプリケーションはないと考える。中長期的に、米国産 LNG が安定的に増量してくることになれば、相対的に価格が安くなる、あるいは安定化するという調達サイドからの期待感はあるが、現時点で具体的に申し上げられるような要素は少ない。

**Q12：来期の I/U 事業の営業利益水準は、期初予想と同程度の 120 億円とあったが、コア利益 25 億円と調達差益で達成できるのか。**

A12：コア利益 25 億円にスライドタイムラグや調達差益、カーゴ転売益などが 100 億円程度プラスされる想定である。

以上

#### 注意事項

本資料に掲載されている当社の現在の計画、見通し、戦略、その他歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しを示したものです。実際の業績は、さまざまな要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おき下さい。

本資料は投資勧誘を目的としたものではありません。